

2016 年度森基金報告書

オタクたちの「聖地」としての秋葉原は衰退したか？

慶應義塾大学大学院
政策・メディア研究科 後期博士課程
菊地 映輝

1. 研究目的

本研究では、秋葉原の街を構成する店舗や施設がどのように変遷してきたのかについて時系列的な把握を行おうとした。さらに、その変化を秋葉原の街に携わる人々が認識し議論するためのワークショップを開催した。

2. 実施した研究活動

2.1. の開催

本来の研究計画では、秋葉原の街を構成する店舗・施設の変化について筆者が調査を行い、実証的な形で秋葉原のオタク聖地としての衰退を明らかにする予定であった。しかし、牛垣雄矢ら（2016）¹の行った研究で、2006 年と 2013 年の秋葉原の街の商業集積の特徴と変化が実際の調査を下地に考察されていた。そこで研究計画を変更し、まず牛垣らの議論がどのようなものかを詳しく把握し、それをもとに秋葉原の街の変化について考察を進めた。

2.2. ワークショップの開催

上記の牛垣らの議論をはじめ、近年の秋葉原の街に起きている変化や事件をまとめた上で、秋葉原の街に携わる多様な人々を集めてワークショップを開催した。ワークショップの概要は下記の通りである。

■ワークショップ名

アキハバラ大会議：2020 年以降の街の姿を考える

■概要

あなたは「秋葉原」と聞いて何を想像するでしょうか。電子部品やコンピュータが集まる電気の街、アニメやアイドルなどの趣味に熱中するオタクたちの趣都、1 日に 70 万人以上が乗り降りする日本有数の巨大ターミナル……人によって思い浮かべる姿は

¹ 牛垣雄矢・木谷隆太郎・内藤亮，2016，「東京都千代田区秋葉原地区における商業集積の特徴と変化——2006 年と 2013 年の現地調査結果を基に」『E-journal GEO』11(1)，85-97.

違って、共通するのは、そこに活気ある街の姿が見えていることでしょう。

しかしながら、秋葉原は大きな問題も抱えています。例えば、秋葉原が児童の性的搾取の現場になっているのではないかという疑いが持ち上がったり、近隣住民や商業者間でのコミュニケーションが不十分なために新しいことにチャレンジできなかつたりと、近年になって秋葉原にまつわる暗いニュースを目にすることも増えてきました。さらに、東京都が訪日観光客に行った調査では、秋葉原に対する期待度は高いものの、実際に街を訪れた人々の満足度はそこまで高くなかったことも明らかになっています。

秋葉原が抱える問題はどのように解決すればよいのか？これからも魅力的な街であり続けるためには何が必要なのか？誰か一人が考えるのではなく、秋葉原を愛し、秋葉原に生きる人々がみんなで議論して考えていくことを目的に、この度ワークショップを開催する運びとなりました。

■開催情報

- ・ 日時：2017年2月12日(日) 14:00～18:00
- ・ 場所：AKIBAPOP：DOJO 秋葉原スタジオ イベントスペース（東京都千代田区外神田3-13-8 東京角田ビル4F）
- ・ 参加者数：34名

■プログラム

1. 開催挨拶と問題意識のシェア
2. グループ分けとテーブル内での簡単な自己紹介
3. インスピレーショントーク
 - ① 慶應義塾大学大学院後期博士課程 菊地映輝
 - ② Akiba.TV 株式会社 杉森浩一氏
 - ③ AKIBA 観光協議会運営者 阿部裕貴氏
 - ④ 慶應義塾大学大学院後期博士課程 中村香住氏

==休憩&活動告知タイム==
4. ワールドカフェ「2020年以降の秋葉原を考える」
 - ・ ワールドカフェのやり方とルールについて
 - ・ テーマ1: 秋葉原の問題点とその解決策
 - ・ テーマ2: 「2025年の秋葉原はこうなる」
5. チェックアウト

以上